

J R久留里線（久留里・上総亀山間）の現状等に係る住民説明会 概要

1 開催日時

令和5年7月15日（土）午後2時30分から午後4時40分頃

2 開催場所

上総地域交流センター3階 多目的ホール

3 内容

（1）検討会議の設立趣旨及び第1回検討会議の結果概要等

- ・千葉県から、検討会議の設立趣旨及び、会議の中で、住民代表から要望があったことを受け、住民説明会の開催が決定したことを説明。
- ・藤井特任教授から、第1回検討会議の結果概要等及び、今後、会議において久留里線（久留里・上総亀山間）の沿線地域の交通のあり方を検討していくとの方向性で合意したことを説明。

（2）J R久留里線（久留里・上総亀山間）の現状等

- ・J R東日本千葉支社から、久留里線の現状と課題について、資料1-1及び1-2に基づき説明。

（3）質疑応答、意見交換

※下記意見等概要のとおり

4 配布資料

- ・J R東日本千葉支社の協議申し入れ文書（資料1-1）
- ・久留里線（久留里・上総亀山間）の現状及び課題に関するJ R千葉支社長会見資料（資料1-2）

5 出席者

- ・千葉県 総合企画部次長 横山 尚典
- ・君津市 企画政策部長 鈴木 広夫
- ・東日本旅客鉄道株式会社千葉支社 企画総務部企画部長 森原 大輔
- ・J R久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議座長 藤井 敬宏（日本大学理工学部交通システム工学科特任教授）

6 参加者 71名

【意見等概要】

①【地区外・男性】

- ・これは交通体系の話ではなく、人口減少をいかにくい止めて、地域を活性化させるか。20年後を見据えて、どう地域づくりをするか、都会の人をどう取り込むか、というこ

【久留里地区】

とだと思っている。

- ・ SDGs をこの地域にどう具体化していくか、戦争、異常気象にも耐えうる地域をどう作るかという観点が大事。10代20代の人がこの地域に誇りをもって暮らしていけるような展望を。そのためには、第一次産業など地域の地場産業の復活強化に取り組む、そのうえで、観光が出てくる。
- ・ 青葉高校は危機的な状況になる。いかにして地域に根差した学校をつくるか。
- ・ 全国で留学制度をやっている。千葉県教育委員会はこれをやらない。推進してほしい。

②【松丘・男性】

- ・ 今回の説明者の中に久留里線を利用している人はいるのか。そうでないと、実際の利用者の声が届くのか心配である。
- ・ 以前から赤字路線なので、廃線の可能性が言われていたが、この間、努力はしてきたのか。経費削減のための運行内容変更は、ある程度まではやむを得ないが、最近の変更は経費削減のためだけとは思えず、利用者いじめになっているように思う。
- ・ 交換方法の変更、ワンマン車両、久留里駅交換の待合せ時間の増加、久留里止まりのための乗り換え、上総亀山行の本数削減等は経費削減につながったのか。
- ・ また、最近久留里駅の上りホームが改修されたが、本当に効率化を図るなら、ダイヤの組み方、施設の整備方法等すべきことがあったのではないか。
- ・ 今回、経費が取りざたされているが、根拠が不透明で信用できない。車両入替や信号システム構築、線路補修費、木更津駅の軽油流出対策費、久留里駅ホーム改修費等はカウントされているのか。ハード面にお金をかけているが、経費を増大させるためとしか考えられない。
- ・ 赤字なのになぜ、新車両に交換したのか。また、導入するにしても最新のモーター駆動車にしなかったのか。
- ・ 久留里線の旧車両（キハ30）は貴重な観光資源になったのではないか。
- ・ 人口減少による利用者減少のほかに私立高校が送迎バスを運行していることも地域の足を壊す要因になっているのではないか。また、人口減少は以前から想定できたのに、なぜ対策を講じたのか。
- ・ 久留里はレトロな街並み、亀山はダムなど観光資源がある。小櫃駅にあるSLを走らせるなど様々な方策があったのではないか。
- ・ 久留里駅ロータリー改修、交流センター建設は、利用者のことを考えていないのではないか。綺麗に整備したことにより、かえって使い勝手が悪くなっているのではないか。駅反対のロータリーはどうするのか。
- ・ 久留里線の運行について、社内でも実態を知らない人が決めているのではないか。
- ・ 私鉄と比べ久留里線の線路は非常に状態が良いので、使わないのはもったいない。
- ・ 地域の将来像が見えない中で、自動車の自動運転などが実用化されない限り、公共交通の確保は久留里線だけの問題とは言えないと思う。

【久留里地区】

③ 【松丘・男性】

- ・ JR資料まとめの中に、「久留里～亀山間55人…鉄道の特徴を十分に発揮できていない、公共交通を持続可能なものとして～交通体系のあり方を検討していきたい」、と書いてあるが、JRは公共交通という認識が薄れているのではないか。イベント列車は久留里まで。これでは、久留里から上総亀山間の収入は増えない。亀山まで通すということをやっていただきたい。
- ・ 昼間の時間帯の久留里から上総亀山間は、5時間以上運行が無く、利用しにくい。本数を増やしてほしい。
- ・ JRは沿線地域の発展に貢献したいと言っているので、県、市と協力して、過疎の地域を希望が持てるような地域にしてほしい。そのような計画には我々も参画する。プラス思考で考えてほしい。

④ 【地区外・男性】

- ・ 総合交通体系の見直しとは、具体的な選択肢は。BRTやデマンド交通があると思うが、地域の足として考えたときに、結局利用者がいなくなるのであれば、車以外の移動の方も多くいると思うので、機能として、鉄道という選択肢も考えてほしい。その際に、営業係数の見直しという考え方もいかがか。全国的に鉄道の議論が始まっている中で、鉄道がただ単に、「人を運ぶ」という観点で存廃の議論になっていると思う。一方で、首都圏では、エキュートやディラなど他の事業との連携で事業を成り立たせている。鉄道事業に限らず事業をしていると思うので、地方でも、そういった鉄道事業以外の係数の考えを導入しては。
- ・ この地区に人が来るという観点で考えては。久留里線だけで見ないで、視野を広げてほしい。
- ・ 行政が一体となって、例えば、キッチンカーを呼び込んで土地の使用料を収入にするなど。経費を下げするための施策も協力してみても。
- ・ JRで車を販売してみても。カートレインという考え方がある。JRが(車)を売れば、その車はトレインに載せられる仕様にできる。電車を使った前と後(駅に到着してから)が大変だと思うから、二次交通を考えるために活用できるのでは。
- ・ 久留里線は短いですが、県跨ぎの交通手段の中で、新しい交通体系になると考えられる。新しい考え方で公共交通機関としていただけると、住む人が増える。地元の活性化につながる。

⑤ 【松丘・男性】

- ・ 増収策の提案。久留里線全駅でSuicaを使えるようにするには、莫大な費用がかかると思うので、自動券売機がある久留里駅と横田駅でSuicaのチャージができるようにしてほしい。久留里線の収入が確保できるようにしてほしい。

⑥ 【地区外・男性】

- ・ 6/25にトキの講演会をやった。2021年の新聞にトキの記事があり、繁殖場所を

【久留里地区】

公募するというもの。これを亀山にできれば、駅前を活性化させることができ、久留里線の利用促進につながる。君津市、県にも勉強してほしい。

- ・ 久留里線に乗ってもらおう努力をしたのかどうか。大災害のことも考えたらこの地域は大事。黒字の部分を回せばよい。

⑦【久留里・男性】

- ・ 検討会議に地域住民の声をできるだけ反映させてほしいので、検討会議の委員の中に久留里線と地域を守る会から1～2名ほど入れてほしい。
- ・ 市民団体から委員に加えられた例。木更津市水道水源保護問題協議会→水道水源保護条例が制定された、その前段の会議体。（水を守る会から）
- ・ 千葉県都市河川環境管理協議会。（干潟を守る会、水を守る会から）
- ・ 有識者も、もう1～2名入れてほしい。鉄道が大事という考えの人を。
- ・ 物価等値上げが続いているが、高速バスより鉄道の方が安く都内に行ける。
- ・ 久留里～上総亀山間の各駅を拠点にして、スクールバスを、空き時間活用した二次交通として使えないか。
- ・ 観光地として発展してほしい。都市計画マスタープランの中にJR久留里線、内房線は、かけがえのない公共交通として柱としているので、尊重してほしい。

⑧【地区外・男性】

- ・ 東横田駅から乗車してきた。ほとんどの方がこのまま存続してほしい、増便してほしいということに意見が集約されると思う。検討会議のメンバーを幅広く増員しては。
- ・ 商工、観光業者などや、袖ヶ浦市、木更津市も正式な委員として。
- ・ 住民の幸せをつくるのが地方自治体の役割。三方よしの精神で。
- ・ 久留里は十分街歩きができる。松丘、平山、亀山も魅力がある。
- ・ 馬来田、東横田もそれぞれ、素晴らしい資源がある。季節を通じてイベントを計画していただければ。千葉県は北総鉄道に財政支援をしている。袖ヶ浦市も駅舎の整備に財政支援をしている。自由通路のエレベーターの経費も市が負担している。
- ・ 路線バスへも赤字補助しているので、財政負担をするのも地方自治体の役目。
- ・ 地域住民も草刈りなどで、しっかりと実動協力をするべき。

⑨【地区外・女性】

- ・ 使いたいと思っても使いにくい状況。亀山までの便数が激減した。亀山でイベントがあっても列車のダイヤがなくて行くことが出来ない。
- ・ イベントがあっても特別列車などの足がないと行きたいと思えない。
- ・ 外から来た人に不親切。二度と来ないという人がいる。地域にいいところ、魅力があっても享受できない。それは車ありきの社会だから。これから車に乗れなくなる人のことも考えてほしい。
- ・ いろいろな要望があるが、それぞれ、どのくらいの経費がかかるのか見えていない。
- ・ 車両の中に自転車を乗せられるスペースを作してほしい。ノーという前に、コストや労

【久留里地区】

力などについて、提示をしてほしい。具体的に説明してくれたら、考えようがある。

⑩【地区外・男性】

- ・ 検討会が始まったキッカケというのは、今年の7月に国がローカル鉄道に関する検討会の提言を（立ち上げた）出したこと。
- ・ 国鉄分割民営化の際の大臣の約束を守らないのか、なぜ廃線するのか。
- ・ 営業努力といったが、JRは何もやっていない。もっと便利にするために何をやってきたのか。不便にただけ。公共性を忘れて、儲けだけしか考えていない。
- ・ 免許返納者にとっても鉄道がないと大変。国は、道路には莫大な予算を投入しているが、交通にはその40分の1。環境問題も考えて残すべき。

⑪【松丘・男性】

- ・ 久留里線の収入の考え方。距離に応じて比例配分は実情に合っていないのでは。
 - ・ 細かく計算できるのか、赤字幅はどう計算しているのか。明細もない。納得できない。
 - ・ JRには明るい話をしてほしい。リニアのような。また時間を空けて集まってほしい。
- 次回は、東京湾アクアラインに鉄道を通すという話題で。

【藤井特任教授総括】

説明会での意見は、検討会議で受け止めるという考えは持っている。

久留里が上総小櫃地域の核となる中で、こういった形で住む・働く・暮らすというキーワードをどう改善していくか、これは、自治体が今取り組んでいるまちづくりといった視点の中で考えなくてはならない。まちづくりと連動させることによって、今度は通うといった移動の仕組みが連動していく。上位計画に相当する計画の位置づけの中で鉄道を考えてはというキーワードがあった。

鉄道に自転車を乗せるなど、ラストワンマイルの部分を考えれば、鉄道を活用できるということだと思う。スクールバスの活用、新たな移動支援ということで考えられる。

地域資源の活用、観光。鉄道を繋ぐという視点での地域資源の活用。

サイクルトレインといった考えもヒントになったと思う。

高齢化の中での移動支援の方法、バス停まで行くのではなく、家の前まで来てというニーズになってくる。

君津市は地域公共交通計画を策定中で、市全域を対象としてアンケート調査をしている。今回の地域の問題意識も取り上げながら、集計し、丁寧に議論していく。

皆様の意見を無下にすることはない。検討会議は、地域の方のためにということで話し合っていく。